

毎年やっている近況報告ですが、書いておかないと忘れてしまうので、自分たちの記録のために書いているという一面もあります。今年も皆さんのお口汚しに読んでやってください。(昨年文字が小さすぎるとい苦情が来たので、今年は少し長くなっても、文字の大きさを小さくして1ページにおさめるということにはしないことにしました。)

さて一味にとって40代最後の年は公私ともに変化に富んだ年となりました。(今年はたくさん仕事をしました。本当です。)六月までは研究休暇年の続きで大学での勤務はなかったので、時間的には柔軟でした。(たくさん仕事をしたと言ったばかりなのに、この出だしはないでしょ。)3月に、2年前からパデュでMBAの勉強をしに来ていた飯野君(高校と大学のバスケット部の後輩)が卒業するので、一緒に旅行をしようということになり、夫婦二組でカリブ海の小国ベリーズに珍道中に行きました。彼らは初めての体験ダイブをしてきれいな海の世界を楽しみました。(ブルーホールという有名ポイントに行ったのですが、船で片道2時間半、着いたときには船酔いで真っ青。それでブルーホールです。)日本に戻る予定だった飯野夫妻は急遽NY勤務となりとんぼ返りして今はニューヨーク住まいです。(ラッキーな奴。)その後、桜の写真とビデオを撮るために東京に戻りました。アメリカ生活を始めて以来夏と冬に日本に帰るというパターンを繰り返していたので、昨年の秋の日本と今年の春の日本は久しぶりでした。(上野の桜にはぎりぎり間に合いました。)ゴールデンウィークまで日本にいる予定だったのですが、チビタンの具合がいよいよ悪くなり予定を早めて帰りました。最後の2週間ほどは完全看護状態になり、本人も苦しかったと思います。5月4日に寿命を全うして16歳で天国に行きました。ちょうど一味が就職した時に飼いだめた犬で、オーストラリアでの一年も含め、衣食住を長い間ともにした家族を失うのは、覚悟していたこととはいえ、やはり悲しいことでした。六月からのミドルベリー大学日本語学校の校長職をひかえ、老犬をバーモントに連れて行くことが懸念されていましたから、その前に逝くことで助けてくれたことになります。(あっぱれなやつでした。)昨年まで旅行が多かった一味の夏は今年は一変しました。新米校長としての仕事が六月に始まり、めまぐるしい日々が続きました。この学校は「日本語しか話さない誓い」というのを学生がして、9週間の合宿生活に入ります。日本語の授業だけでなく、週末には映画、運動会、夏祭り、カラオケ大会、学芸会などのイベントを開催し、部活のような形で習字、生け花、お茶、折り紙、武道などの活動もあります。まあ、日本の中学校の一年間の行事を2ヶ月間に凝縮したようなノリです。しかも、それを全寮制でやるわけです。学生たちはまさに朝から晩まで勉強していますし、教師は朝から晩まで仕事をしています。そうした中で、80名学生と18名の教師陣との9週間の共同生活はとても新鮮で、満足感がありました。新しい仲間もたくさん増えました。今年は被爆60年ということで、学生に千羽鶴を折らせ、広島大学の友人堀田さんを通して平和公園に飾ってもらう、LA在住の被爆者の方(大竹さん)に講演をお願いする、そして「父と暮らせば」という映画を上映するなどといった原爆関連のイベントをプログラムの中に取り混ぜ、学生たちに核兵器の問題を考えてもらおうという試みをしました。これらはまずまずの成果があったと思っています。9週間での学生たちの上達度には目を見張るものがあり、効率的な語学学習のモデルだと思います。(前出の飯野夫妻も遊びに来ました。)また、今年日本語学校には一つおまけがありました。それは、世界的に有名なヒラリー・ハーンという若手のバイオリニストが初級の学生として参加したことです。彼女は日本でも何度もコンサートをしていて、日本語に興味を持っていたようです。人間的にもとてもすばらしい人で、日本語学校の為にコンサートもしてくれました。(コンサートのための練習を見せてもらう機会に恵まれたのですが、間近にみるプロの演奏というのはすごいものでした。まさに試合開始数時間前のまだ誰もいないシカゴスタジアムでマイケル・ジョーダンが一人黙々とシューティングしているのをコートサイドから見ていたようなものです。)コンサートでは副校長の三浦さんがピアノ伴奏をつとめたのですが、彼が一番緊張していたと思われます。ふだんあまりクラシック音楽に縁のない一味もすっかりファンになりました。ミドルベリーでの出来事

は以下のホームページでご覧になることができますから、暇なときにでもお試してください。
(<http://community.middlebury.edu/~khatasa/>) 今は、来年のプログラムへの準備を始めています。(来年は本物の落語の師匠が来てくれるかもしれません。)夏の仕事の後は、息つく暇もなくパデューに戻り一年ぶりに教鞭をとっています。そんなわけで、ふだんは夏の間に行くダイビングには今年は行けませんでした。(でも、12月にパラオに行ってきます。)なかまの改訂版用のコンピュータプログラムの製作も着々と進んでいます。また、由紀子のプロジェクトの一環として昨年撮っていたビデオも編集したり、加工したりしてデータベース化に向けた作業を進めています。11月の学会では音声認識技術を利用した日本語教育用のプログラムの開発について発表したり、コンピュータグラフィックスを使った教育プログラム開発のためのミーティングをしたりしました。(もちろん、少しはおいしい物を食べたり、みんなでお酒を飲んだりもしました。)

由紀子は1月に日本から戻り、アイオワ大学での勤務に戻りました。東京の都会生活に半年浸ってきたので、アイオワの田舎生活に戻るのには少し大変でした。4月には簡単な手術をしにシカゴに行った直後、チタンの容態が急に悪くなり、病院につれていったら末期がんだとわかりました。(なんと一味の母と同じリンパ腫でした。)もう立てない状態だったので本来は安楽死させたほうがよかったのかもしれませんが、一味が日本に行っていたので、流動食を手で食べさせてなんとか持ちこたえてもらいました。でも、一味が戻って一週間後には命が付き、苦しい中生きていてくれて本当にありがとうという気持ちでした。5月から7月は、勉強の月で、5月は日本の学会に出席したり文献集めをしたりし、6月はハワイ大学で2週間の評価法の集中講義を受講しました。評価法は以前勉強し、2、3回教えたこともありますが、最近はずかづかっていたので、復習プラス新しいことを学ぶことができ、有益でした。ハワイの講習は朝から夕方まで予定が詰まっています、平日は遊ぶ時間など全くありませんが、週末は少し時間の余裕がありました。ハワイには15年来の友人の久保田佐百利さんが遊びに来てくれ、週末にはスパに行ってリラックスし、翌日はノースビーチにドライブに行きました。ドールのパイナップル農園で汽車に乗ったり、ワイルアの植物園に行ったり、ビーチで寝そべったり、のんびりした一日を過ごしました。(ワイキキは込んでいるし、ビーチそのものはそんなにきれいではないので、ビーチの好きな人には東海岸か北のノースビーチはおすすめです。)帰りは高速道路近辺で火事があり、ホテルに戻るのに少し時間がかかりましたが、講習に出ていた別のグループは火事のあった高速道路で渋滞につかまり、結局車の中であつい午後を過ごしたとかで、由紀子たちは大変ラッキーでした。7月にはミドルベリーに4日ほど行き、ちょうどいらっやっていた三浦先生(ウィスコンシン大学名誉教授)に久しぶりにお会いすることができました。その後、ウィスコンシン大学で開催された応用言語学の国際大会に参加し、8月からまた新学期が始まりました。はじめの一ヶ月はほとんど毎週末旅行でしたから体力的にはちょっときつかったのですが、イギリス日本語教師会に参加できたのは大きな収穫でした。アイオワ大学の卒業生の森本さんが教師会の会長になっていて、基調講演に読んでくれました。久しぶりにあった森本さんはとても先生らしくなっていただけでなく、以前と同様さわやかなとてもいい青年でした。仕事でヨーロッパへ行ったことはそれまでなかったので、今までお会いする機会のなかった先生方ともお知り合いになれましたし本当によくしていただきました。日本語教育事情なども知らないことばかりで勉強になりました。11月にはACTFLという外国語教育の大きな学会があり、二つ発表をしました。一つは日本でやっていたプロジェクトの関係、もう一つはアジアにおける反日運動関連のトピックで、由紀子は歴史教科書問題について話をしました。こちらの方は全く専門外だったので、やたらとたくさん本や論文を読まなければなりませんでした。本来歴史はそんなに嫌いな方ではないし、いろいろな国の人が同じことについて書いたものを読むのは却って面白かったです。それに、日本語教育にもいかせることは多いとあらためて感じました。ACTFLを最後にここ3年間つとめていた全米日本語教師会(NCJLT)理事の仕事が終わりました。この学会の理事は初、中、高、大学すべ

てのレベルの教師会からなり、それぞれが忙しい仕事を担当しなければならないことを熟知の上引き受けていることなどから、皆とても熱心でよく仕事をする人たちばかりで、とても楽しい3年間でした。ふだん大学という狭い社会で生きているだけに、このような活動に参加させてもらえると、本当に教えられることばかりです。由紀子は学会の会報誌の編集やメールチェックをしていましたが、今後もメールチェックなどのお手伝いをすることにしています。また、ACTFLのような大きな学会では（この学会には通常4,000人から5,000人出席します。）たまにしか会えない友達や先生方にお会いできるのも楽しみです。今回は恩師牧野先生とキューバ料理のレストランに行ったり、ミシガンの岡さん、久保田さん、田伏さん、インディアナの角谷先生や元同僚の栗谷さん、大学時代の同級生で今は西海岸の高校で日本語の先生をしている宗田さん、ミドルベリー大学の先生方と食事に行ってわいわい騒ぎました。

今度のお正月は日本にいますが、またまたビデオを撮っている可能性が高そうです。まあ、楽しみながらやっていますから、そんなに仕事をしているという感じはしませんが。ミータローは元気に、癒し系の猫を演じてくれています。チビタンには16年間に渡りいつもやさしい気持ちになれる時間を与えてもらったことにとても感謝しています。合掌。

お体に気をつけて、楽しいクリスマスとよいお年をお迎えください。

一味 & 由紀子

***** 頌春 2006年 戌年*****